コミュニティデザインとは

地域に住む人たちが
地域に住む人たちの力で
（できるだけ多くの人たちと手を携えて）
地域を変えるために活動する

共創が生まれる背景

大企業と地域企業と行政が一体となって進める「グローカルまちづくり」

グローバルカンパニーであるKOA株式会社の存在が箕輪町のゼロカーボンアクションが生まれるきっかけとなったが、町全体の取り組みに発展できたのは行政や地域発の中小企業の貢献度も大きい。縦割りを超えて環境施策を推進した行政職員や、地域企業間の関係性を築いた地元出身の経営者のリーダーシップが重要な役割を果たした。お互いの立場と役割を理解しあい、説得力ある発信が共通意識を醸成し、「地域貢献」を促進した。グローバルとローカルを融合させた「グローカルまちづくり」といえるだろう。

Trigger

気候変動など地域に起こった事象に対する住民の受け止め

気候変動に関する講演会に参加した箕輪町役場職員が強い危機感を覚え、ゼロカーボンへの取り組みが町に必要だと強く認識。地域の検討会議を立ち上げる。

Infrastructure

気質や続いてきた事業など地域の文脈

地域のグローバル企業を含む7社の企業が1990年に産業廃棄物研究会（現：リサイクルシステム研究会）を発足。活動の積み重ねによって、環境活動に関する地域コミュニティを構築した。

＋

ReVision

目指す景色や視座の再設定

2050年のCO_2排出量ゼロを目指して数値目標やそれに向けた戦略を設定した箕輪町地球温暖化対策実行計画。長野県の目標よりも高い60.1%を目標として掲げている。

Point!

県の目標よりも高い、“60.1%”という排出量削減目標を掲げる挑戦はどの自治体もできるわけではない。特別委員会の委員長を務めた箕輪町出身の経営者は「高い目標設定をすることで、周りの人々が心配し、興味を持って助けてくれるようになる。中途半端な目標設定をすると、やらない」と意図を語っており、実際に高い目標を設定をしたことで国からの注目を浴びるなど、追い風があった。地域に根差した事業を行なう経営者によるリーダーシップアクションが特徴といえるだろう。

関係性を築いた地元出身の経営者のリーダーシップが重要な役割を
共通意識を醸成し、「地域貢献」を促進した。グローバルとローカルを

Trigger

気候変動など地域に起こった事象に対する住民の受け止め

気候変動に関する講演会に参加した箕輪町役場職員が強い危機感を覚え、ゼロカーボンへの取り組みが町に必要だと強く認識。地域の検討会議を立ち上げる。

＋

Infrastructure

気質や続いてきた事業など地域の文脈

2050
数値目
箕輪
長野

気候変動に関する講演会に参加した
箕輪町役場職員が強い危機感を覚え、
ゼロカーボンへの取り組みが町に
必要だと強く認識。地域の検討会議を
立ち上げる。

+

Infrastructure

気質や続いてきた事業など地域の文脈

地域のグローバル企業を含む7社の
企業が1990年に産業廃棄物研究会
(現:リサイクルシステム研究会)を発足。
活動の積み重ねによって、
環境活動に関する
地域コミュニティを構築した。

2050年のCO
数値目標やそれ
箕輪町地球温
長野県の目標
目標とし

Point

県の目標
どの自治
町出身の
興味を持
やらない
からの注
なう経営

者のリーダーシップが重要な役割を果たした。お互いの立場と役割を理解しあい、説得力ある発信が
を促進した。グローバルとローカルを融合させた「グローカルまちづくり」といえるだろう。

象に

した
覚え、
町に
会議を

ructure
事業など地域の文脈

企業を含む7社の
産業廃棄物研究会
テム研究会）を発足。

+

ReVision

目指す景色や視座の再設定

**2050年のCO_2排出量ゼロを目指して
数値目標やそれに向けた戦略を設定した
箕輪町地球温暖化対策実行計画。
長野県の目標よりも高い60.1%を
目標として掲げている。**

Point!

県の目標よりも高い、“60.1%”という排出量削減目標を掲げる挑戦はどの自治体もできるわけではない。特別委員会の委員長を務めた箕輪町出身の経営者は「高い目標設定をすることで、周りの人々が心配し、興味を持って助けてくれるようになる。中途半端な目標設定をすると

きっかけを捉え
その土地の文脈（気質）に合わせて
方向性を定める

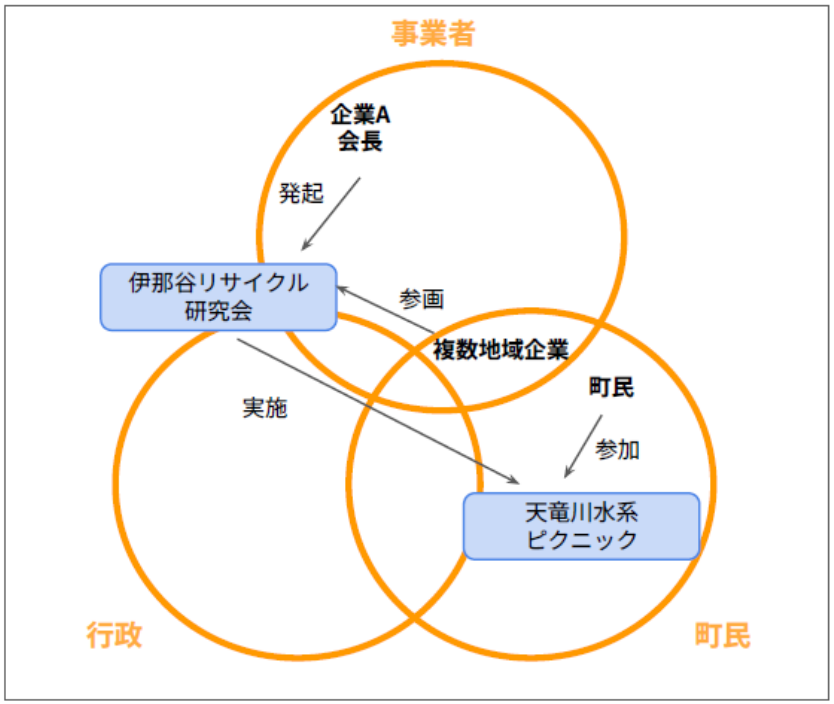
変化の潮目をつくっていくための
全体的な動きをつくる行為

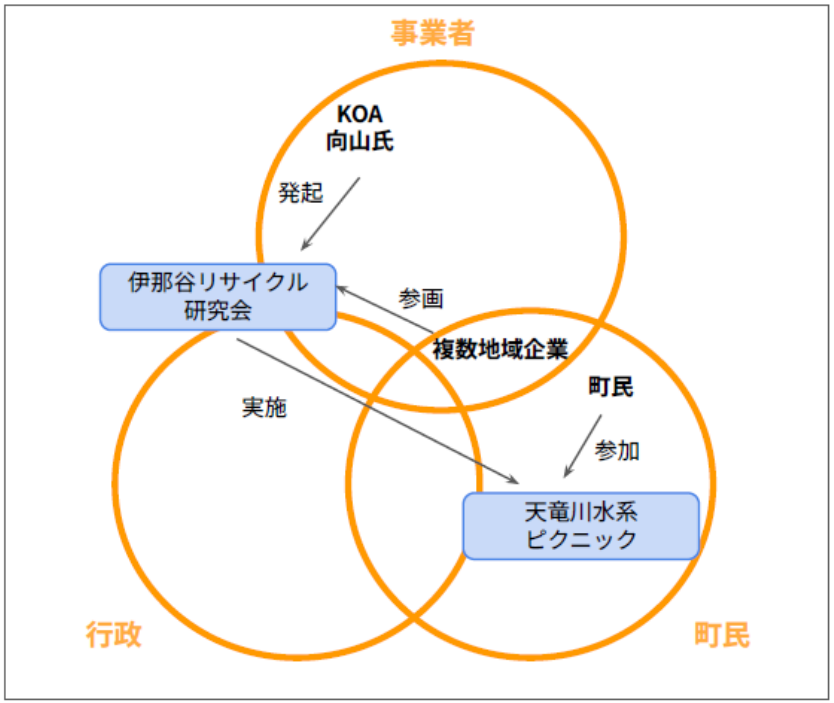
キーファクタ
個人から地域

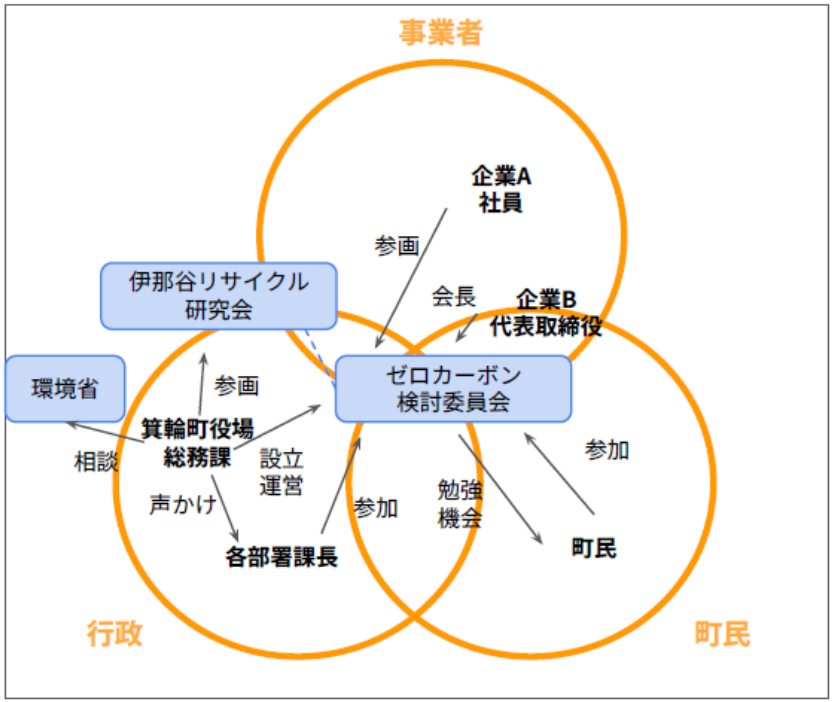
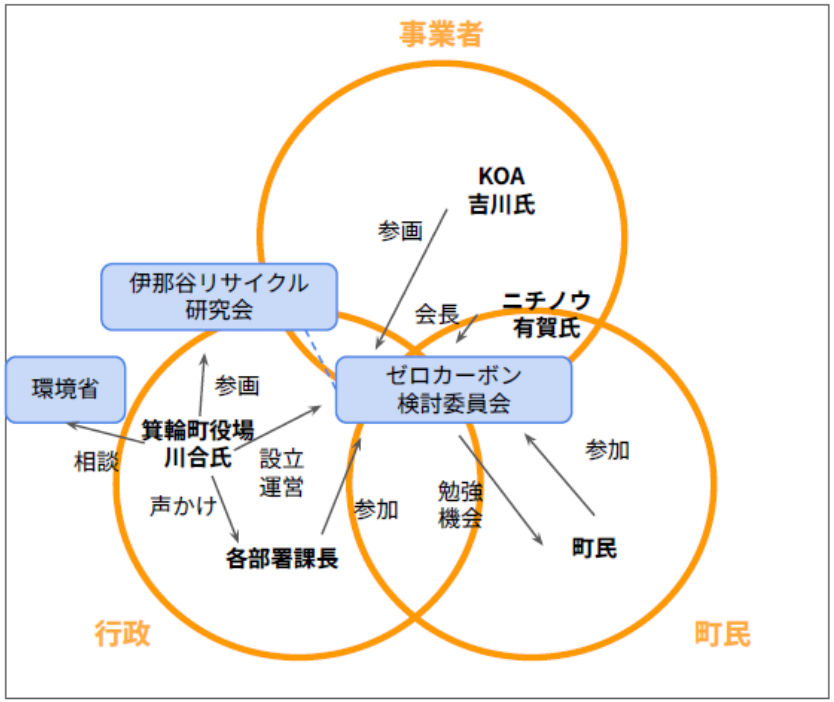
コミュニティデザイン
地域から個人

箕輪町の相関図（伊那谷リサイクル研究会創設時）

箕輪町では元々グローバル規模で展開する地域企業の会長が発起人となって、伊那谷エリアの企業を中心に1994年から**環境に対してのアクションと勉強を行う研究会**が発足した。活動に対して、町民や他の町内企業も参加をする中で関係構築が行われており、**民間主体で環境に対しての危機意識**が生まれていた。





箕輪町の相関図（ゼロカーボン検討委員会設置）

箕輪町役場の総務課の職員が令和2年に伊那谷リサイクル研究会が主催していた勉強会に参加した際に、ゼロカーボン施策に対しての危機意識を覚え、行政が研究会に参画したことがきっかけで、行政主体のゼロカーボンアクションの検討会が開かれた。役場職員がハブとなり、役場の町長、課長たちにも施策の重要性を訴えながら、環境省に相談をしながら予算取りも進め、**行政・事業者・町民が一体となってゼロカーボン施策を通じたまちづくり**を行う体制を作り上げて行った。